





やま がた あり とも
山 県 有 朋

天保9年～大正11年（1838～1922）

天保9年（1838）長州藩（山口県）に生まれ、青年時代は、吉田松陰の松下村塾に学び、高杉晋作や伊藤博文らとともに尊王攘夷運動に参加し、文久3年（1863）奇兵隊の軍監となる。明治政府の成立とともに、明治5年（1872）陸軍中将となり、徵兵令の制定など軍備の充実に努め、その後も、陸軍の中心人物として活躍する。政治家としては、参事院議長、内務卿、内務大臣を歴任し、明治22年（1889）には第1次、明治31年（1898）には第2次山県内閣を組閣する。その後、明治33年（1900）元老、明治38年（1905）枢密院議長となり、大正11年（1922）の死去まで、実力者として首相の選任や重要な施策の決定に大きな発言力を有したといわれる。

また、趣味の世界においても、和歌、歌舞音曲、築庭に秀れた才能を持ち、特に築庭に関しては、無鄰菴をはじめ、椿山荘（東京）、小滝庵（大磯）、新々亭（東京）、古稀庵（小田原）などは、みずから深くかかわったといわれている。

む
無

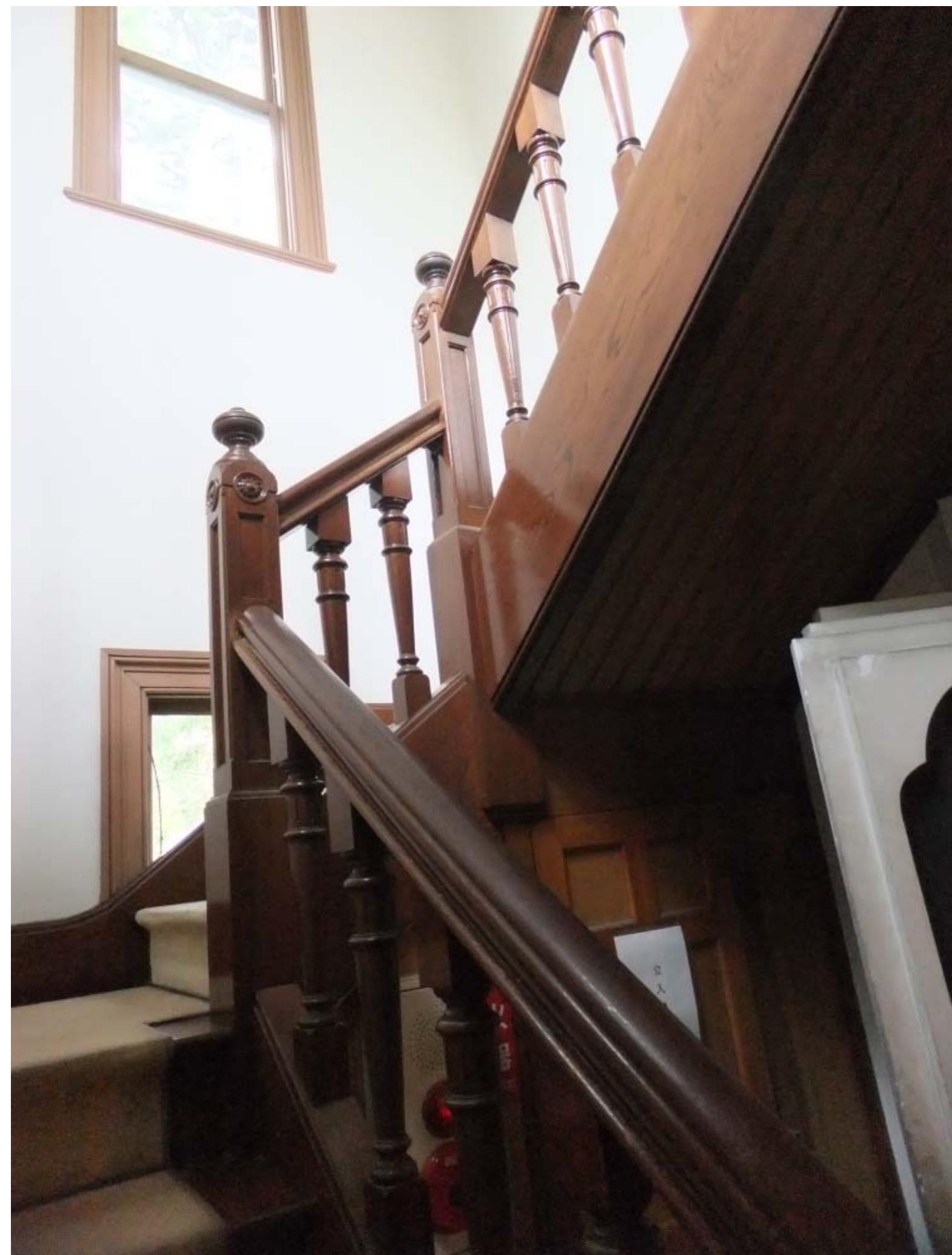
りん
鄰

あん
庵

無鄰庵は、明治27～29年（1894～96）に明治・大正の元老山県有朋が京都に造営した別荘である。その名は、有朋が長州（山口県）に建てた草庵が隣家のない閑静な場所であったことから名付けられたという。その後、有朋は、京都の木屋町二条に別荘を構え、無鄰庵と号したが、さらに新しい地に好みの別荘を作りたいと考え、明治27年（1894）、現在の地に無鄰庵を営んだ。

庭園は、有朋自らの設計・監督により、造園家・小川治兵衛が作庭したもので、池泉を中心とした明治時代の代表的庭園である。建物は、簡素な木造2階建の母屋、敷ノ内流燕庵を模してつくられた茶室および煉瓦造2階建の洋館の三つから成る。洋館は明治31年5月の建立であるが、2階には、江戸時代初期の狩野派による金碧花鳥図障壁画で飾られた部屋があり、ここで明治36年（1903年）4月21日、元老・山県有朋、政友会総裁・伊藤博文、総理大臣・桂太郎、外務大臣・小村寿太郎の4人によって、日露開戦直前のわが国外交方針を決める「無鄰庵会議」が開かれている。今日でも、この部屋には、花鳥文様の格天井、椅子、テーブルなどの家具が残り、当時の趣を伝えている。

有朋はこの別荘の庭園をこよなく愛し、多忙な公的生活の少しの合間にも夫人を伴ってしばしば訪れた。有朋は、大正11年（1922年）に83歳で亡くなり、その後、無鄰庵は昭和16年（1941年）に京都市に寄贈され、現在、同市の管理となっている。また、昭和26年（1951年）には、庭園が国の「名勝」に指定されている。



志摩 14

1. 鮎川の鮎、20世紀初頭の
鮎漁の様子。
2. 鮎川の鮎の生態とその漁獲量
を示す図。

















無鄰菴會議

この部屋で、明治36年（1903）4月21日、元老・山県有朋、政友会総裁・伊藤博文、総理大臣・桂太郎、外務大臣・小村寿太郎の4人によって、日露戦争開戦直前の日本の外交方針を決める無鄰菴會議が行われた。当時の新聞によると、会談は午後4時から約2時間にわたって行われたという。

THE MURIN-AN CONFERENCE

It is a well-known fact that the Murin-an Conference, concerning the foreign policy of Japan just before the Russo-Japan War, was held in this room on April 21, 1903, by four political leaders. These were Marshal Aritomo Yamagata; the leader of the Seiyu-kai Party, Hirobumi Ito; Prime Minister Taro Katsura; and Foreign Minister Jutaro Komura. According to the newspaper at that time, the Conference was held from 4 to 6 in the afternoon.





